心理学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
学生の確保（人）			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	1年次	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	3年次編入学	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）	－ ※ － （－）

	博士課程修了		論文博士	博士課程修士
学位授与数（人）	修了年次定員	修了者数	授与数	授与数
	8（ 8）	6（ 4）	－（－）	－（ 1）

	論文・著書発表数	学会発表数	受賞・表彰等
学生の研究活動（件）	38（45）	80（67）	2（ 2）

		教員	企業	公務員	研究員（学術振興会）	その他
学生の進路（人）	修了者	－ （－）	－ （－）	－ （－）	6 （ 4）	－ （－）
	退学者	1 （ 2）	－ （ 1）	－ （ 2）	3 （－）	1 （－）

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は，中間評価の合格者数を示す。
・（ ）は前年度の数値を，※は外国人留学生を内数で示す。

1　心理学研究科の活動

博士課程修了者数は定員の7.5割であり，高い割合を維持できた。今年も学位取得に向けた正・副指導教官の指導効果が認められた。学生の論文等の発表数は例年とほぼ同程度であったが，来年度は博士課程の最終年度にあたるので，一層の論文等の発表数を増加させるよう，課程修了に向けた指導強化を行いたい。そして，修了できない院生については，スムーズな転研究科を実施したい。研究科の再編に伴い，心理学関係分野の定員が増加したため，教室不足が顕著になった。発達臨床の分野では，「心理相談室」と「子ども相談室」が設置されており，院生の技能修得の場とともに社会的貢献の場となっている。

2　教員の教育業績評価の状況

教員の教育業績評価の目安として，各教員の指導学生数，指導学生の学会発表数・掲載論文数，指導学生の中間論文合格者数・課程修了者数，大学・研究機関への就職者数等がある。このような評価指標は，教員の資質以外に，社会の時流に影響される専門分野間の入学者数の相違にも大きく影響を受けるので，公平な教育業績のために他の評価指標の導入が課題である。

3　自己評価と課題

(1) 自己評価

中間論文の中心は新研究科に移行したため，中間論文に関係する学生は無かった。今年度の学術振興会特別研究員には，心理学関連分野で３名が合格した。修了者と退学者はそれぞれ６名と５名の計11名であった。退学者には就職以外に，修了年限を越えたものも含まれている。課程修了者は主に博士特別研究員を希望している。学位取得と同時の就職は順調とは言えず，今年も厳しい情況である。

(2) 課題

学位取得率の増加が最大の課題である。今年度は定員の7.5割に達し順調であったが，来年度は本研究科の最終年度にあたるため，正・副指導教官の連携の下での一層の指導強化が望まれる。ほとんどの学生が大学や研究所への就職を希望している。しかし現状は厳しい状態が続いているため，学生の就職が大きな問題となっている。研究科の再編に伴い心理学関係分野の定員数が増加したため，心理学の研究室不足が深刻化している。助手・技官数の減少や事務の支援体制の変更もあるため，学系や研究科の事務に対する支援体制の整備が必要である。

4　その他特記事項

第21回日本生理心理学会大会を平成15年５月26日―27日に開催した。
第63回日本動物心理学会・第22回日本基礎心理学会の合同大会を平成15年10月31日・11月１日に開催した。
Tsukuba International Conference on Memory（第５回）を平成16年３月13－15日に開催した。